

⑤7 蓮阿初老賀摺

春風や真綿吹出す黒羽織

夢来

気さんしに咲て居るなり山桜

芹舎

岩代に安達太郎嶺ありはつ霞

八十有古人

菊也

老初てこゝろのとけし庵のぬし

得水

ひと二葉出るとひらくや福寿草

眠霍

月花の遊ひたねなりはつ白髪

耕雨

黄鳥も東風のものなり今日も来て

桃石

千代や千代まつを花咲はしめかな

元海

したしみのますや梅にも柳にも

青山

是からや眉にもさかせまつの花

杏堂

初空や雲かと思れは鶴の舞ふ

蟻住

永き日や坐敷に残る蓑たばほん

萬女

見る中に睦月のものよ池のをし

等栽

降るほどは寒いてもなし春の雪

鯉住

万代の今日にある名や初日の出

素水

茶の友を得て野を戻る子の日かな

陽谷

弾そめやそゝのかされて膝拍子

月彦

日あしひのひる柳や風のひま

一草

心こゝに落つく年のあした哉

みき雄

江にかけをひたしてあかる雲雀哉

杜郎

春雨や晴るゝに風も手伝はず

宇山

朝日さすかけもうるはし初手水

蓬仙

蓬萊や式はすみても飾りおく

文禮

常にさへまけ嫌ひなり年男

其徳

うくひすやまた花笠は着ぬはつ音

成雅

雉子鳴や小松を引し野のあたり

松賑

四十路また浮葉巻葉の蓮かな

聴松

遣り羽子や袂に見える豊み鶴

露晒

はつ鳥うれしの森は今日の名か

永機

常ならぬまつのみとりや初日かけ

松古

潤はしき春とはなりぬ竹の節

壮山

あらためて月雪花の遊ひかな

柳六

雪も解氷もとけてうめの花

乗月

蓬萊にあける嘉例や伊勢曆

影山

蓬萊の霞にひとし齡祝ひ

有儀

陽炎や波につゝまる伸の石

月花

うるはしき声なり名なり金衣鳥

忍山

芦はらやそよりもせず初日の出

偵亮

菜の花や気さんしらしき鎌遣ひ

太甫

囀りや四方から来る花の風

稲波

蝶ならはよき道つれよ老のあし

袋蜘蛛

□□□□□□□□松の若みとり

寒□□

まはらなる梅こそよけれ二日月

馬巖

千代となく声は雀よ今朝の春

霞川

はつ曆ひらくや花のあけこゝろ

如風

どちらから見ても見あきぬ柳かな

一羽

くもりなき年の光りや鏡餅

素吟

またひとつ咲膝もとや福寿草

柳波

新らしや日にくゝ殖る春の水

雲冷

月さしていよく白し窓の梅

一尾

たゝの木も粧ふ花の盛りかな

葛美

送り人もおなしきけんや春の月

政女

梅さいて窓に朝日の匂ひけり

隈水

鶯のはつ音にとゝ日あしかな

仙鳥

呼たらぬうちに返事や年男

松笠

薄着して出たるまうけやはつ桜

勸月

春はまた寒し柳の若みとり

旭露

めてたさを留主へ書置御慶かな

榎寮

真上には鶴も舞ひけり小松引

龜遊

鶯や今朝は手つから庭掃除

榎寮

春の水末広々と流れけり

蓮史

ふつくりとした日となりて福寿草

未昇

見るたびに姿あたらし春の山

罌紫

年を経てまさる色香や梅の花

蓮里

小松引人の曠着やはつ子の日

愛雪

下蒔の育ちや鶴の下り処

梅林

蓬萊や禁ふとそよぎの風もほし

瓦全

十分の春とはなりぬ百千鳥

旧溪

楽しさはちからに見えて小松引

布村

見あければ月もおわすや花の上

黄菊